



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
No. 672 令和6年1月10日
青梅市立河辺小学校

「質の高い授業」を目指して ～校内研究の取り組み～

あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが2類相当から5類へと変更されてから初めての冬休み・お正月。旅行や帰省をされたり、久しぶりに旧知の方とのひと時を楽しまれたりした方も多いのではないのでしょうか。子供たちにとっても、良いリフレッシュや英気を養う機会となったことでしょう。

お正月から、大きな地震や事故、事件のニュースがありました。ご家族・ご親族やご友人、知人の方などの安全を案じる方もいらっしゃると思います。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。

3学期は、1年のスタートでもあり、年度の締めくくりでもありますので、「充実の時」としていけるよう、努めてまいります。今年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、「学校」は子供たちにとって「様々なこと学ぶ場」ですが、中でも最も大切にしなければならないものは「授業」です。年の初めに、河辺小学校が今年度取り組んでいる授業改善(校内研究)についてご紹介したいと思います。

学校では毎年「研究テーマ」を決めて校内研究に取り組み、授業改善の共通実践を行っています。今年度の河辺小学校の研究テーマは「タブレット端末等のICT機器を活用した『質の高い授業』づくり」です。

小学校の教育課程は、文部科学省の「学習指導要領」に基づいています。現在は、「主体的・対話的で深い学び」を実現することを目指して、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させることが求められています。

そして、コロナ禍で予定よりも前倒して実施された「一人一端末」を中心とした「ICT機器の効果的な利活用」が進められています。

しかし、急ピッチで進められたため、ICT利活用についてはまだまだ手探りの状態です。そこで、今年度は青梅市教育委員会のICT教育推進校の指定を受け、授業や教育活動をより効果的・効率的に行うためのICTの利活用法について学んでいます。

もちろん、「授業でタブレットを使用すれば何でもいい」というわけではありません。「子供が自ら考え、学ぶ授業」「友達と交流しながら考えを広げ、深める授業」を実践する中で、効果的にICT機器を利活用していくことが大切です。

そこで、授業のねらいを明確にし、適切な学習計画を立て、子供が主体的に取り組める工夫がある「質の高い授業」を目指して、全教職員で研究活動に取り組んでいます。

子供が学ぶ楽しさを味わえるような授業を検討し、その実践として、これまで5年(9月)3年(10月)6年(11月)と3回の研究授業を実施しました。それぞれ東京都小学校国語研究会の先生や、青梅市教育委員会の指導室の皆様など、優れた実践経験の豊富な講師の先生をお招きしてご指導をいただき、さらなる改善に努めています。今後、2月に4年、2年での研究授業を実施予定です。

常に、よりより授業・教育活動を目指していく姿勢を大切に、全教職員で共通理解・共通実践していけるよう、努めてまいります。今年もどうぞよろしく願いいたします。